



第4回全国インターアクト研究会
第2回全国地区インターアクト委員長会議
報 告 書



ホスト：国際ロータリー第2650地区

第4回全国インターアクト研究会並びに第2回全国地区インターアクト委員長会議

スローガン「行動—未来へ」

～ 1日目プログラム(2015年9月25日) ～

		(敬称略)	
12:00	受付開始	司会 2650地区 IA 委員	才門 俊文
13:00	開会点鐘 <イベントホール>	2650地区ガバナー	中澤 忠嗣
	国歌、奉仕の理想、インターアクトの歌斉唱	ソングリーダー 2650地区 IA 委員	福留 幸一
	開会の言葉	2650地区ガバナー	中澤 忠嗣
	挨拶	研究会委員長/2680地区パストガバナー	三木 明
	来賓及び出席者紹介	2650地区 IA 委員長	伊藤 勝晤
	来賓挨拶	特別顧問/RI 元理事 顧問/RI 元理事	千 玄室 黒田 正宏
13:30	基調講演	タイ国チェンライ RC 元会長	原田 義之
14:20	全体写真撮影	2650地区 IA 副委員長	中村 廣良
14:35	休憩		
14:40	IAC 活動報告	2600地区 文化学園長野中学・高等学校 IAC 顧問 2620地区 静岡県西遠女子学園高等学校 IAC 顧問	千村 美恵子 大杉 友子
15:40	パネルディスカッション	コーディネーター 実行委員長/2650地区パストガバナー IACの今後と提唱クラブの役割 パネリスト	松浦 啓之 北河原 公敬 北 清治
		パネリスト 研究会委員長/2680地区パストガバナー	三木 明
		パネリスト 2650地区草津 RC IA 委員長	馬場 勲
		パネリスト 2680地区滝川高校 IAC 顧問	福山 太一
17:00	終了		
18:00	懇親会 <八千代>	司会 2650地区 IA 委員	青木 謙友
	乾杯	顧問/RI 理事	杉谷 卓紀
20:00	懇親会終了		

～ 2日目プログラム(2015年9月26日) ～

(敬称略)

9:00	受付開始	司会	2650地区IA委員	才門 俊文
9:20	全体会 講演 <イベントホール>	循環型社会創造研究所えこら 代表	藤田 アニコー	
10:00	分科会の進め方について説明	2650地区IA委員	宇野 晃成	
10:05	休憩及び各会場へ移動			
10:15	分科会 1-環境保全・社会奉仕・地域貢献 <第1・2会議室>	コメンテーター	藤田 アニコー	
	分科会 2-国際理解 <研修室>	コメンテーター	原田 義之	
	第2回全国地区IA委員長会議 <イベントホール>	議長	2650地区IA委員長	伊藤 勝悟
12:00	講演・総評	顧問/RI理事	杉谷 卓紀	
12:30	次回開催地紹介	2650地区ガバナー	中澤 忠嗣	
	次回ホスト地区挨拶	2760地区ガバナー	加藤 陽一	
12:40	閉会式			
	閉会挨拶	実行委員長/2650地区パストガバナー	北河原 公敬	
	手に手つないで 斉唱	ソングリーダー	2650地区IA委員	福留 幸一
	閉会点鐘	2650地区ガバナー	中澤 忠嗣	



当日の様子



開会式

第2650地区中澤ガバナーの挨拶

ご来賓並びに全国から多くの地区委員長、顧問の先生をお迎えして



第2回全国地区委員長会議

インターアクトクラブ活動に対して委員長の熱い思いが溢れる会議になりました。



基調講演

原田義之氏

「北タイ少数民族・アカ族子供たちから学ぶこと」

【分科会①】環境保全・社会奉仕・地域貢献

参加人数：31名

記録者：ヴィアートル学園洛星中高 IAC 顧問 井上崇子(第2650地区京都紫野 RC 提唱)

構成：司会・記録者自己紹介→流れの説明→参加者自己紹介

→【第1部】藤田アニコーさんの講演

→【第2部】活動報告（伊那西高校 IAC）

→【第3部】ディスカッション（2班に分かれて）

→まとめの報告

内容：

【第1部】藤田アニコーさんの講演「ハンガリーのエコなところ」

- ・公共交通が発達→World Car Freeday (9/22) Week European Mobilityに参加
- ・ラウンドアバウト（信号のない交差点）→スピード減、アイドリングなし
- ・「散歩の道」の設置→地域活性／車の使用削減
- ・買い物→地産地消・穀物自給率140%
 - 豚の解体→用器不要・無駄なく食す・命のありがたさの教育
 - ばら売りが多し・用器はデポジット制により回収率も高い
- ・環境境域の充実→資源回収・エコスクール・グリーン幼稚園などの認定
森の学校（森の中で子どもを育てる）健康食の推進
- ・持続可能な社会の実現に向けて →「エコサークル」家庭において環境負担を減らすために目標を定めて活動。意見交換会・勉強会を通して仲間作り
→「グリーンコンシューマー協会」調査・情報・グリーン店マップ・
メーカー商品比較・地産地消祭りなどで啓発
- ・地域の環境を考えるグループも多数あり
（例：地元の湖の環境改善に尽力した女性グループの紹介。
かつての「琵琶湖石けん運動」に似ている。）

Köszönöm!

【第2部】「活動報告」—伊藤志保里／伊那西高等学校・2600地区（参考：大会資料P26）

- ・手話を学ぶ→文化祭で手話ソングを発表
- ・地域と関わり→保育園訪問・老人ホームお手伝い・障害者スポーツ大会
赤ちゃん抱っこ体験・100km徒歩の会（小学生の補助）
- ・24時間TVチャリティー募金
- ・留学生との交流会（信州大学農学部）→文化の紹介
（今後の課題およびまとめ）
生徒たちが与えられたものだけでなく、自主性をもって活動できるように、
顧問も意識を高めていかなければならない。
地域との関わりと通して、自然・環境のことも考えられるよう導いていける
ようにしなければならない。

【第3部】ディスカッション及びまとめ（11:20～12:00）2グループに分かれて

○グループA

今後、どのような活動をしていくべきか

老人ホーム訪問 川の清掃 芝桜の植樹 など

単年度のIA委員長と各校のIA顧問との引き継ぎが上手く機能していない。
継続していくことが大切。

○グループB

地域に密着した活動が求められている（海岸清掃・アースデイ参加など）

IACのあり方について

全国的なつながりがあってよいのではないか。募金活動なども学校独自の取り組みではなく全国的な組織があったらそこに集約できる。（例えば高体連・高芸文連のような→土曜日に授業がある学校も参加しやすくなるのでは？）

顧問が替わると上手くいかない現状。ロータリも単年度であるため連携が不十分である。

以上

【分科会②】 国際理解

参加人数：38名

記録者：福井高等学校 IAC 顧問 古田 亜由美(第2650地区福井南 RC 提唱)

構成：司会・参加者自己紹介→「国際理解の取り組み」 発表者 第2650地区福知山
淑徳高校 IAC 顧問 野澤 恵・第2680地区豊岡総合高校 IAC 顧問 岩本 敏浩→
各校の取り組み紹介→質疑応答→まとめ総括

内 容：

【2650地区の取り組み】

- ・海外研修の目的 ①国際理解 ②社会奉仕 ③リーダー養成
- ・カンボジア選定の理由
 - ①紛争等の歴史的背景～ポルポト時代・内戦・地雷～
 - ②開発途上の現在～交流・学校訪問・日本人の活躍～
 - ③文化遺産～世界遺産アンコールワット～
- ・2650地区の海外研修について
2010年よりカンボジア研修実施（5泊6日・8月に実施）

【2680地区の取り組み】

- ・兵庫県立豊岡総合高等学校 IAC について
- ・主な活動について①（校内での活動）
美化活動・PCアカデミー補助・プルタブ収集、回収・使用済み切手回収
- ・主な活動について②（校外での活動）
清掃活動・環境活動・地域交流・花いっぱい運動・農業体験・街頭募金・軽よん市・
地場産業 PR・
祭礼・たっちゃん応援隊・他校インターアクト交流・東北支援活動
山陰海岸ジオパークでの活動報告・災害メモリアル KOBE2015・国際交流
- ・表彰歴
- ・国際交流（国内）
 - ①Hanna 来校 →会長の姉の知人。高校2年生。
 - ②蕭定雄交流（Hsiaoding Hsiung） 清華大学→台湾大学大学院 環境専攻
 - ③JCI イベント →兵庫県在住外国人とのディスカッション
 - ④オードリー ホームステイ →米・台ハーフ。高校2年。大学AO試験準備。
 - ⑤身体障害者野球世界大会スタッフ →但馬ドーム会場
 - ⑥コウノトリ未来国際会議 →漂着ブイからプランター
 - ⑦その他
 - ・JICAエッセイコンテスト ・民際センター（ダルニー奨学金）
 - ・日本語の本寄贈（台湾） ・インターアクト米 ・ポリオワクチン
 - ・ランチョンマット寄贈・ミラノ万博・第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク

・国内での国際交流について

Merit ・経費が掛からない。移動が容易。外国人の日本が達者。

Demerit ・但馬に在住者が少ない。甘えや緊張感、切迫感がない。達成感がない。
気が乗らない。身振り手振りで済まし、妥協する。

・スタディーツアー実績

① 2012.12 3泊4日 台湾

- 目的：1. 国際理解と親善を深めること
2. 世界から見た真の日本の姿を見つめて、日本の良さについて考え、日本人としての主体性・独自性を醸成すること
3. 一人ひとりが持つ自分の夢の実現に向けて努力すること

- 日程：1日目 元智大学交流
2日目 太極拳 野柳公園清掃活動
新北市立泰山高級中學交流 士林夜市
3日目 清掃活動 中正紀念堂 101展望台 李梅樹記念館 山峡祖師廟
板橋北區 RC 交流 士林夜市
4日目 忠烈祠 故宮博物院 買い物

② 2015.1 3泊4日 台湾

- 目的：1. 国際理解、親善を深めるため
2. 世界から見た真の日本の姿を見つめて、日本の良さについて考え、日本人としての主体性、独自性を熟成させるため
3. 生徒一人ひとりが持つ自分の夢の実現について努力するため
4. 初めての海外旅行を通じて社会的常識を身につけさせ、日本の良さの再認識をさせるため

- 日程：1日目 921 震災公園 廬山温泉
2日目 霧社 台中 士林夜市
3日目 太極拳 故宮博物院 救國團 九份
4日目 台湾大学交流 買い物

③ 豊岡市夢へ挑戦する高校生支援事業について

④ 2015.8 3泊6日 タイ王国

- 目的：チャレンジ1 国際奉仕・社会奉仕
ドゥアン・プラティープ財団 孤児院 への訪問
チャレンジ2 異文化交流・国際理解
SOMTAWIN 中高一貫校への訪問 異文化交流
チャレンジ3 リーダーシップの養成
RYLA セミナー(Rotary Youth Leadership Awards)ロータリー
青少年指導者養成セミナーの応用実施
チャレンジ4 ロータリーへの理解 タイ王国の米山奨学生との交流

- 日程：1日目 豊岡-KIX 出発式 直前オリエンテーション

- 2日目 王宮 エメラルド宮殿 ホアヒン泊
- 3日目 SOMTAWIN 学校訪問・交流 カウンシルファイヤー
- 4日目 スラム街ドゥアン・プランティープ財団孤児院
全体フォーラム
- 5日目 アユタヤ遺跡など
- 6日目 解散式 KIXー豊岡

【各校の取り組みの紹介】

- ・宇都宮文星女子高等学校 IAC
台湾の生徒との交流（2月台湾より男女30名程来校・ホームステイ・3月に台湾訪問）
カンボジア学校建設プロジェクト
- ・南安曇野農業高校 IAC
2600地区でオーストラリア・ハワイ・台湾研修
オーストリアチロル地方と姉妹都市・青少年交流会（2年に1度）
日本語ボランティア・地域の外国人の日本語勉強のお手伝い（毎週日曜日）
雲南省の雲南農業学校（姉妹校）の訪問
- ・長野女子高等学校 IAC
身近な地域にいる外国人観光客へのインタビュー・交流会
信州大学の留学生との交流会
- ・西遠女子学園高等学校 IAC
国際交流協会の支援で、定期的にスペイン人との交流会（料理・サンバを踊るなど）
交換留学生との交流
- ・日本航空高等学校 IAC
地域に住んでいる外国人対象のイベントに参加（国際交流協会より依頼）
ソロモンのベティマツ高校、ラオスの高校と交流
- ・滝川高校 IAC
インターナショナルナイト
ダルニー奨学金
海外への支援活動（ポリオプラス協賛活動・四川・ネパールの震災など）
- ・神戸国際大学附属高校 IAC
ワールドビジョンジャパンを通して、アジア・アフリカの学校へ行けない子供への支援
支援しているベトナムの子供へベトナム語で手紙を書く
カンボジアへ送る書籍回収のお手伝い（ロータリーが図書館を作った際）
- ・百合学院高等学校 IAC
ブラジルとシエラレオネの修道院に募金活動（月に1回30年）
大学生の国際支援団体とのワークショップ
イザ！カエルキャラバンの実施（防災イベント）

【まとめ「総括」】

- ・元紛争地を選択してカンボジアへ行くことの大変さ（2650 地区）
 - ・バンコクの貧困地、途上国へ行って奉仕と貧困を体験して欲しい（2680 地区）
 - ・日本語を学ぶ生徒との交流をして欲しい
- 日本人がどのくらい正しい日本語を使っているかどうかを感じて欲しい。
（自分が伝えたいことがあったら、正しい日本語を使わなくてはならない。）
教えるためにも、正しい日本語を使い、学ぶことは国内研修でも実施できる。
- ・タイの日本語学校と交流をしたい場合は、すぐ連絡できるので、連絡して欲しい。
 - ・昨日の講演の続き・・・

支援は心配り。相手は貧困であっても物乞いではない。

おみやげは自分の好きな物で。支援はおみやげではないので、現地の物（現地で安く購入）をより多くの人に支援できるものに。

支援には、維持費（電気代・修理費）がかかるものを渡さない。

支援は現地で安く購入したものでよい。

相手目線、相手にとって役にたつものを、勉強した上で渡して欲しい。

支援するときは、新しい洋服を支援して欲しい。

以上



【第2回全国地区インターアクト委員長会議】

参加人数：42名

記録者：第2650地区インターアクト委員会

1. 開催地区について

第5回全国インターアクト研究会開催並びに第3回全国委員長会議は次年度（2016-17年度）はすでに第2760地区（愛知）が決定していますがその後について意見交換を行ったところ、次々年度（2017-18年度）には2550地区（栃木）が手を挙げられて決定となり続いて2700地区（福岡・佐賀・長崎）、2590地区（神奈川）が候補として挙手され満場一致で承認されました。全国インターアクト研究会が大きく全国に向けて羽ばたいた瞬間となりました。

2. 地区委員長からの活動報告

全参加地区委員長から各地区の活動状況と課題を報告して頂きました。地区事業としては国際理解に関しては海外研修、社会奉仕では各クラブの地域社会における活動報告が多数を占めましたが、国内研修に力を入れている地区や2580地区（東京・沖縄）のように東京と沖縄を交互に訪問するという地区もありました。

また、海外研修では台湾、韓国、シンガポール、ハワイ、オーストラリアのインターアクターとの交流や、ホームステイ、2650地区のようにカンボジアを訪問して現地の孤児院で作業を行うなど様々な方法で行われていました。

その他、国内を研修対象として全員参加のユニークな活動をしている地区や地区の枠を超えて活動しているIACも報告され参考になりました。なお、年次大会（地区大会）は各地区とも行なわれています。

3. 課題として

- ・地区によってはRCの数に比べてIAC数が少ない。（今後の展開が期待できる）
- ・各地区共にクラブの拡大に努める必要がある。
- ・提唱ロータリークラブと学校、顧問の関係が適切でない（休部の学校が6校ある地区もあり）例も紹介されました。
- ・1年で変わる提唱クラブの担当委員長の熱意にばらつきがありIAC活動がやりにくい。
- ・海外研修は評価できるが参加者数が限定され、経費、安全面のリスクもある。
（国内研修に切り替えた地区あり）
- ・全国のIACの会長、幹事を一堂に会してリーダーシップ研修が行われぬか。（均一化を目指す一方で地域特性、学校の特徴、クラブの個性を損なう）経費の問題あり。

4. 総括

様々な地区のIAC活動が報告されまた、課題も知り参考になりました。共通しているのは各委員長総ての方がIAC活動に熱意をもって対応されている事でした。

以上

